

## 平成28年度公立大学法人福知山公立大学業務実績報告書に係る評価結果一覧表

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価							平均値 (参考)	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果 (案)	A	B	C	D	E				
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置												
1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置												
1	現行カリキュラムを見直すとともに、教育成果の測定方法を検討する。	3	3	3	2	3	3	3	2.8	(B委員) カリキュラムを見直すという行為は、上記の中期目標を達成する為の手段であり、改善行為である。従って、単に必要な科目を配置して見直したという事実だけでは、3の評価にはならないと考える。現行のどの科目に対し、中期目標と中期計画を視野に入れ、何を目的として、どのように変えたのかを具体的に書くべきである。適切な取り組みが行われている事実を、記述(報告)から確認できないので、評価2が相当であると考える。 (E委員) カリキュラムの具体的な見直し方針がよくわからない。学修ポートフォリオはどのような内容で、誰が記入し、誰が評価するのか？		
2	大学の基本理念である地域協働の一環として、地域の自治体や企業などから講師を招き、特別講義や講演を実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(E委員) 後学期にどのような人を何人招いたのか？		
3	幅広い視野、豊かな人間性、生きていくための総合力(人間力)を涵養するため、ベーシック(教養科目群)及び実践教育科目を置く。	4	4	4	3	4	4	3	3.6	(B委員) 【1】と同様にカリキュラムの改善行為である。従って、行ったことについては、何を目的として、何を配置したのか、新規で配置した科目名と具体的な狙いを書くべきであり、場合によっては具体的な記述も必要。それらの記述が無い場合、3を超える評価には無理があり、評価3が相当と判断する。 (E委員) 科目数を増加させたことがポイントなのか？		
4	地域における実践力を涵養するために、「福知山公立大学開学記念連続講演会」を開催する(計7回)。	4	4	4	3	4	4	3	3.6	(B委員) 取り組みに対して、「量(回数)」や「質」を確認できないと、基本的には評価を与えることはできない。評点4以上なら尚更である。計画は、7回の実施であるため、仮に7回の実施であれば評価3が相当である。それ以上実施されているのかもしれないが実施回数不明瞭である。質の評価の観点でも、具体的な取り組みの記述がない。従って、3を超える評価には無理があり、評価3が相当と判断する。 (E委員) 北部各市町を回って記念講演を行ったことが評価なのか？		
5	就業体験を通じて社会を知るためのインターンシップを実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(E委員) インターンシップは福知山だけで行ったのか？各市町で開催したのであれば、各市町で開催したことが評価の対象とならないか？		
6	地域協働型の実践教育を目的としたフィールド学修を実施する。	4	4	4	3	4	4	3	3.6	(B委員) 「実践実習による学びの徹底」ということであれば、中途半端ではなく一貫している必要がある。専門教育と実践教育を行って課題解決能力を養成するという観点でいうと、フィールド学修の延べ回数で学生が育つわけではなく学生1人1人が経験した回数と延べ時間による。学生1人に対して行った平均回数と平均時間数、あるいは質的な評価につながる記述が無い場合、3を超える評価には無理があり、評価3が相当と判断する。 (E委員) 北部各市町でのフィールド学習の実施は評価できるが、学習アウトカムはどうだったのかの記述に乏しい。		
7	ワークショップ等のグループ学修を授業で積極的に取り入れる。	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(E委員) ワークショップ率高い。		
8	アクティブ・ラーニングを推進するためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(E委員) 毎回の参加者はどの程度か？		

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価							平均値 (参考)	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果 (案)	A	B	C	D	E				
9	予習・復習の習慣づけを継続する。	3	3	3	3	3	4	3	3.2	(D委員) 多くのシラバスで、学生への情報提供が求められる項目について、詳細な記載ができています。特に授業外学修を促す、予習・復習や参考図書への記載ができていますものが多い。		
10	ディプロマ・ポリシーを明確に定める。	4	4	4	3	4	4	3	3.6	(B委員) 年度計画は“明確に定める”である。評価の判断理由に当たる「計画の実施状況」欄を見ると、定められたポリシーに関わる特段の記述が無く、明確に定めたとあるだけであるため、3を超える評価は無理であり、評価3が相当と判断する。 (E委員) ディプロマ・ポリシーを定めるのは当たり前なことではないか？		
11	シラバスに明示した各科目の概要及び到達目標、成績評価の方法と基準に沿った成績評価を行う。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
12	GPA（成績評価係数）による学業評価を学生指導に役立てる。	4	4	4	3	4	4	3	3.6	(B委員) 年度計画は“学業評価を学生指導に役立てる”である。評価の判断理由に当たる「計画の実施状況」欄を見ると、学生指導に役立てた事実に関わる特段の記述が無いため、3を超える評価には無理があり、評価3が相当と判断する。 (E委員) GPAを役立てたのみの内容である。		
13	ディプロマ・ポリシーに基づき、明確なカリキュラム・ポリシーを策定する。	4	4	4	3	4	4	3	3.6	(B委員) 「年度計画」の記述にある下線部について、評価の判断理由に当たる「計画の実施状況」の記述をみると、下線部分が実行できたことを確認できる。しかし、取り組みに関わる定量的・定性的な特段の記述がない。従って3を超える評価には無理があり、評価3が相当と判断する。 (E委員) なぜ4の評価になるのかわからない。		
14	カリキュラム・ポリシーに基づき、現行カリキュラムの内容や科目の見直しを行い、専門的かつ体系的なカリキュラムを構築する。	4	4	4	3	4	4	3	3.6	(B委員) 「年度計画」の記述にある下線部について、評価の判断理由に当たる「計画の実施状況」の記述をみると、下線部分が実行できたことを確認できる。しかし、取り組みに関わる量的・質的な特段の記述がない。従って3を超える評価には無理があり、評価3が相当と判断する。 (E委員) 中期目標通りに進めたに過ぎない。		
15	ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会を定期に開催する(月2回程度)。	3	3	3	3	3	3	2	2.8	(E委員) 委員会開催は年間の回数か？月2回であれば24回の開催か？		
16	ファカルティ・ディベロップメント(FD)に関する研修会、勉強会を実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(E委員) 研修会への教員の参加はどの程度であったか？数値目標が必要なのではないか？		
17	授業アンケートを学期ごとに実施し、授業内容・方法等の改善及び向上に活用する。	3	3	3	3	4	3	3	3.2	(C委員) 授業の内容や方法に関する受講者のアンケートを活かすために、公表したのは有効である。		
18	教職員による授業参観を試行する。	3	3	3	3	4	3	3	3.2	(C委員) 評価の高い授業を選び授業参観を行ったのは有効である。		
19	自己点検・評価を実施し、その結果を教育研究水準の向上や活性化に繋げる。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
20	本学の実情に即した内部質保証システムを構築し、PDCAサイクルを円滑に実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			



番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価							平均値 (参考)	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果 (案)	A	B	C	D	E				
	評価1	0	0									
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置												
2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置												
37	地域経営研究に関連する学会・研究会を開催し、研究者の招聘について検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
38	持続可能な社会の創出に関連する研究及び情報分析を行うとともに、他の機関等との共同研究を推進する。	3	3	3	2			3	3	2.8	(B委員) 「年度計画」の記述にある第1下線部と第2下線部について、「計画の実施状況」の記述をみると、第1下線部の実績が確認できない為に未実施の判断になる。さらに、第2下線部については、協定締結の確認はできるが、共同研究を実施あるいは開始した事実が確認できない。また、未実施のマイナスを補うだけの量的・質的な特段の記述が無いことを加味し、評価2が相当と考える。 (E委員) 包括協定等の進捗は著しいが、実際の研究等はどれだけ進んだのか？	
39	統計資料をはじめ北近畿地域の様々な情報の収集、整備に取り組む。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(E委員) ハードコピーの収集だけではなく、データベースの構築を進めるべきではないか？	
40	北近畿地域をはじめとする周辺地域の団体と連携するため、北近畿地域連携センターを設置する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
41	外部資金（科学研究費補助金や戦略的創造研究推進事業等）の獲得に関する取り組みを推進する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(E委員) 何らかの数値目標が必要ではないか？	
42	福知山市等から委託事業・共同事業の獲得を推進する。	3	3	3	3	4	3	3	3	3.2	(C委員) 多くの委託事業・共同事業が獲得できたと評価できる。	
43	学内研究費を均等に配分したうえで重点的な配分も行う。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
44	研究に関する規程（研究費不正使用防止、研究不正行為防止、研究倫理）を整備する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(E委員) 研究倫理に関わるオンラインテストの受講を進めるべきではないか？	
評定平均値		3.0	3.0									
評価5		0	0									
評価4		0	0									
評価3		8	8									
評価2		0	0									
評価1		0	0									
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置												
3 地域協働(地域貢献)の質の向上に関する目標を達成するための措置												
45	多世代並びに社会人向けの公開講座を開講する（15回程度）。	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0		
46	地域社会による大学施設の利用を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
47	地域への講師派遣のほか、研究成果の有効活用を積極的に図る。	3	2	3	2	2	3	2	2	2.4	(B委員) 「年度計画」の記述にある第1下線部と、第2下線部について、「計画の実施状況」の記述をみると両方の実績が確認できない為に未実施の判断になる。また、未実施のマイナスを補うだけの記述が無いので、評価2が相当と考える。 (C委員) 外部からの働きかけによる実施のみであるため、積極的に研究成果の有効活用が図られたのか疑問が残る。 (E委員) 研究成果の有効活用がどのように図られたのかがわからない。	
48	地域からの相談窓口を開設する(北近畿地域連携センター)。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		

番号	年度計画	法人自己評価	評価委員会委員評価							平均値(参考)	評価のポイント、委員会確認事項(評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果(案)	A	B	C	D	E				
49	学内施設を改修し、「北近畿地域連携センター」及び「市民学習・キャリア支援センター」を開設し、北近畿地域の企業や各種団体との協働の場を設ける。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
50	様々な機関や団体が有する知的資源、人的資源等の活用に向けた検討を行う。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
51	北近畿地域の知の拠点として、広く住民を対象に大学の知的資源を還元し、また、北近畿地域の自治体との積極的な連携協力体制を構築することを目的として、京都府北部5市2町において、「福知山公立大学開学記念連続講演会」を開催する。(再掲)	4	4	4	3	4	4	3	3.6	(B委員) 「年度計画」の記述にある下線部について、「計画の実施状況」の記述をみると、第3下線部の実績が確認できる。しかし、第1下線部と第2下線部については、地域協働・地域貢献の質の向上という観点にたった取り組みや成果について特段の記述が無い為、3を超える評価には無理があり、評価3が相当と判断する。 (E委員) 北部各市町村を回って記念講演を行ったことが評価か？		
52	福知山市内において、「まちかどキャンパス」を試行する。	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0		
53	北近畿地域の行政機関や企業等の各種団体と連携した地域経済や政策的課題の研究、並びに地域の課題解決への取り組みを推進する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
54	地域と連携して実践教育に取り組む。	3	3	3	3			3	3	3.0	(C委員) 積極的に地域と連携して実践教育に取り組みられているので、年度計画は上回って実施していると評価できるが、中期計画(就職活動の支援)に繋がっているのが判断できない。	
55	北近畿地域を中心にインターンシップ等の受入先の拡充・開拓を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
56	地元企業等の学内説明会を開催する。	4	4	4	4	4	4	3	3.8	(E委員) 4とする根拠に乏しい。		
評定平均値		3.2	3.1									
評価5		0	0									
評価4		3	3									
評価3		8	7									
評価2		1	2									
評価1		0	0									
第5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置												
57	理事長(学長)の迅速な意思決定を補佐するため、理事、学部長、学科長等で構成する運営会議を設置するとともに、学内組織である教授会、各種委員会、各種センターの機能・役割を明確にする。また、全学協議会の開催を検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
58	事務局に企画担当者を置き、先を見据えた取り組みを行う。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
59	法人経営・大学運営の重要な課題について、的確かつ機動的にプロジェクトチームやタスクフォースを立ち上げて対応する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
60	福知山市議会、公立大学法人福知山公立大学評価委員会、高校等と意見交換を行う。また、北近畿地域連携センターを窓口とした産官学が連携する会議を設置する。	3	3	3	2	3	3	3	2.8	(B委員) 「年度計画」の記述にある第1下線部と第2下線部について、「計画の実施状況」の記述をみると、第1下線部の実績は2/3の実施であり、第2下線部は準備段階で未設置である。また、未実施のマイナスを補うだけの量的・質的な特段の記述が無いことを加味し、評価2が相当と考える。 (E委員) 「進路指導を担当する高校教員」はどのエリアの教員か？		

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価							平均値 (参考)	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果 (案)	A	B	C	D	E				
61	理事会、経営審議会、教育研究審議会において、外部理事、外部委員、監事の意見等を法人経営、大学運営に反映する。	3	3	3	2	3	3	3	2.8	(B委員) 「年度計画」の記述にある下線部について、評価の判断理由に当たる「計画の実施状況」の記述をみると外部意見を大学運営に反映したことが確認できる。しかし、この項目については、単に何かをするという計画ではなく、経営改善の取り組みである。そうである以上、具体的な記載が必要であり、左記の記述では、経営改善につながる意見を引き出したのかどうかが見えない。従って、経営改善の重要性を考えると十分ではないという評価が相当するであろうと考える。		
62	ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会を定期的に開催する (月2回程度)。(再掲)	3	3	3	3	3	3	2	2.8	(E委員) 委員会開催は年間の回数か？月2回であれば24回の開催か？		
63	ファカルティ・ディベロップメント (FD) に関する研修会、勉強会を実施する。(再掲)	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
64	授業アンケートを学期ごとに実施し、授業内容・方法等の改善及び向上に活用する。(再掲)	3	3	3	3	4	3	3	3.2	(C委員) 授業の内容や方法に関する受講者のアンケートを活かすために、公表したのは有効である。		
65	教職員による授業参観を試行する。(再掲)	3	3	3	3	4	3	3	3.2	(C委員) 評価の高い授業を選び授業参観を行ったのは有効である。		
66	スタッフ・ディベロップメント (SD) 委員会を開催し、教職員の資質向上の取り組みを積極的に行う。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
67	教職員のスタッフ・ディベロップメント (SD) に関する研修会、勉強会を計画的に行う。	3	3	3	3		3	3	3.0			
68	教職員人事評価制度の導入を検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
69	教育・研究や地域貢献の実績やイベント情報をメディアに情報提供するとともにホームページで公開する。	3	3	3	3	4	3	3	3.2	(A委員) HP、SNS、また各メディアへの発信以外にも、自治会回覧等を利用し、一般市民にペーパーでの案内も行うなど、多くの市民に関心を持ってもらえる情報発信をお願いしたい。 (C委員) 多くの情報発信が実施され、特に市民の目に留まりやすい地元新聞に活動が報じられる機会が多く、大学の1年目の活動が可視化されることで市民の安心感につながると感じた。 (E委員) 数値目標があっても良いのではないか。		
70	大学の活動にかかる各種アンケートを実施し、分析結果を以降の活動に反映する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
71	理事会、経営審議会、教育研究審議会における外部理事、外部委員、監事の意見等を法人経営、大学運営に反映する。(再掲)	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
72	市民向け報告会を検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
73	ステークホルダーからの情報収集、整理、共有を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
74	教職員人事評価制度の導入を検討する。(再掲)	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
75	執行状況を定期的に把握し、予算執行に反映させる。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価							平均値 (参考)	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果 (案)	A	B	C	D	E				
76	適切な発注方法を検討し、実施する。	2	2	2	2	2	2	2	2.0	(A委員) 学内活動に影響が生じないように、予算計 画作成時等において、実施に係る検証を十 分にお願したい。		
77	経費支出及び研究費支出のガイドライン を作成し、周知を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
78	自己点検・評価委員会を設置する。ま た、運営会議を週1回程度開催し、外部 状況、内部状況、課題等を把握する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(A委員) 情報の共有化の面からも定期的、また積極 的に会議等を行っていただきたい。		
79	次年度の定員増による学生数の増加等を 想定し、教職員の定員、配置を検討す る。	3	3	3	3	2	3	3	2.8	(C委員) 教員、事務職員が不足しているため。		
80	雇用形態、勤務形態、給料形態等、多様 で柔軟な人事制度を検討する。	3	3	3	3	2	3	3	2.8	(C委員) 人員が不足しているため、的確な人事制度 についても、スピードアップして対処すべき ところであるが、情報収集に留まっている。		
評定平均値		3.0	3.0									
評価5		0	0									
評価4		0	0									
評価3		23	23									
評価2		1	1									
評価1		0	0									
第6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置												
81	定員増に取り組む。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
82	大学運営に必要な環境が整備されてい るかを確認する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
83	執行状況を定期的に把握し、予算執行に 反映させる。(再掲)	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
84	適切な発注方法を検討し、実施する。 (再掲)	2	2	2	2	2	2	2	2.0	(A委員) 学内活動に影響が生じないように、予算計 画作成時等において、実施に係る検証を十 分にお願したい。		
85	経費支出及び研究費支出のガイドライン を作成し、周知を図る。(再掲)	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
86	教職員人事評価制度の導入を検討する。 (再掲)	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
87	福知山市及びその隣接地域の全高校並び に前年度志願者が5名以上の北近畿地域 の高校に対しては年内に3回訪問し、志 願者増に努める。	4	3	4	3	3	4	3	3.4	(A委員) 各高校の進路指導の先生の意識が大きく 志願者に影響すると聞きます。まだ入学 者、志願者を送ってもらっていない高校にも 積極的なアプローチをお願したい。 (B委員) 「年度計画」の記述にある第1下線部と第2 下線部について、評価の判断理由に当たる 「計画の実施状況」の記述をみると、第2下 線部は記述により大変な実績が確認でき る。しかし、第1下線部は残念ながら記述か ら実績が確認できない。従って、記述から 判断し、評価3が相当となる。 (C委員) 訪問回数が志願者増につながったのが 判明しない。また志願者増につながったの か検証されていないのであれば、検証する 必要がある。 (E委員) 訪問した回数も重要かもしれないが、結果 的に訪問して受験者が増えたのか？		
88	賑わいのあるオープンキャンパスを検討 し、実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(A委員) オープンキャンパス参加者の情報等のフォ ローに注力いただきたい。		

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価							平均値 (参考)	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果 (案)	A	B	C	D	E				
89	志願者データを分析し、次年度の学生募集活動に反映する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
90	各種受験媒体、ホームページを効果的に活用した広報活動を行う。	4	4	4	4	4	4	3	3.8	(E委員) 計画よりも格段に達成したとは評価しにくい。		
91	高校と連携し、出前講義(10回程度)を実施する。	4	4	4	4	4	4	3	3.8	(A委員) 地域への大変大きな広報にもなると評価します。ぜひ継続的な実施をお願いしたい。 (E委員) 4と評価するだけの説得力に乏しい。		
92	公立大学として適正な授業料等学生納付金額を設定する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
93	適切な料金等を設定し、外部による施設利用を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(A委員) 広報誌等を活用した情報発信により、施設利用の促進を図ることを希望する。		
94	国、地方公共団体等の外部資金の獲得を推進するとともに、企業他各種団体からの外部資金獲得に向けての制度設計を検討する。	3	3	3	3	2	3	3	2.8	(C委員) 外部(企業含む)に向けた資金獲得の制度設計が検討されたことが読み取れない。		
95	科学研究費補助金の獲得に取り組む。	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(E委員) 何名の教員が科研費に応募したのか?		
96	定員増に取り組む、定員を充足させる。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
97	執行状況を定期的に把握し、予算執行に反映させる。(再掲)	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
98	適切な発注方法を検討し、実施する。(再掲)	2	2	2	2	2	2	2	2.0	(A委員) 学内活動に影響が生じないように、予算計画作成時等において、実施に係る検証を十分をお願いしたい。		
99	経費支出及び研究費支出のガイドラインを作成し、周知を図る。(再掲)	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
100	執行状況を把握するとともに発注実績を共有し、コスト低減を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
評定平均値		3.1	3.0									
評価5		0	0									
評価4		3	2									
評価3		15	16									
評価2		2	2									
評価1		0	0									
第7 自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置												
101	年度計画により計画的に業務運営を行う。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
102	平成28年度終了後、年度計画に定めた項目ごとにその実績を明らかにし、公立大学法人福知山公立大学評価委員会の評価を受ける。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
103	平成29年度の認証評価機関による評価(第三者評価)に向け、自己点検・評価の体制を整備する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
104	自己点検・評価を実施し、その結果を教育研究水準の向上や活性化に繋げる。(再掲)	3	3	3	2	3	3	3	2.8	(B委員) 「年度計画」の記述にある第1下線部及び第2下線部について、「計画の実施状況」の記述をみると、第1下線部は実施が確認できる。しかし、第2下線部の教育水準の向上や活性化に繋げるという点は、単に何かをするという計画ではなく、向上と活性化の取り組みである。そうである以上、具体的な記載が必要であり、記述ではそのあたりが見えてこない。従って、十分ではないという評価が相当するであろうと考える。		

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価							平均値 (参考)	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果 (案)	A	B	C	D	E				
105	本学の実情に即した内部質保証システムを構築し、PDCAサイクルを円滑に実施する。(再掲)	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
106	中期計画、年度計画については、設立団体の長である福知山市長の認可を受けた後、財務諸表(期首貸借対照表)、自己点検による評価結果については作成後、遅滞なくホームページ等を通じて公表する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
107	法令で公表義務がある事項に限らず、大学の活動状況をホームページ等を通じて積極的に公表する。	3	3	3	3	4	3	3	3	3.2	(C委員) 積極的な広報が実施されており、活動状況が公表されている。	
108	大学の基本理念、特色等の周知を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
109	広報委員会と入試委員会は、内容に応じ適宜共同で活動を行う。	3	3	3	3	2	3	3	3	2.8	(C委員) 中期計画において、「広報委員会は主に大学の知名度及びイメージの向上に関して、入試委員会は主に学生の確保に関して活動を行う」とあるが、アンケートの実施が中期計画の達成につながるものなのか、疑問が残る。	
110	調査やデータ分析等を活用し、目的及び効果を考慮し、計画的に効果的な広報活動を行うよう努める。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
111	マスメディア等との連絡体制を確立するとともに、情報提供及びホームページ等を通じた時機を逸しない広報活動に努める。	3	3	3	2	3	3	3	3	2.8	(B委員) 「年度計画」の記述にある第1下線部及び第2下線部について、「計画の実施状況」の記述をみると、第2下線部の実績は確認できるが、第1下線部の確認が残念ながらできない。従って、記述から判断し、評価2が相当となる。	
評定平均値		3.0	3.0									
評価5		0	0									
評価4		0	0									
評価3		11	11									
評価2		0	0									
評価1		0	0									
第8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置												
112	内部監査体制を構築する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
113	ハラスメント防止に関わる啓発と研修を実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(E委員) ハラスメントの相談案件はなかったか？	
114	研究に関する規程(研究費不正使用防止、研究不正行為防止、研究倫理)を整備し、研修会を実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
115	公益通報制度を周知する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
116	設置者変更に伴い、資産の把握を適切に行い、承継資産の点検・評価を行う。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
117	資産台帳をもとに効率的かつ確実な運用・管理を行う。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
118	施設設備の現状を把握し、老朽化した施設設備の整備を検討する。	3	3	3	2	3	3	3	3	2.8	(B委員) 「年度計画」の記述にある第1下線部及び第2下線部について、「計画の実施状況」の記述をみると、第2下線部の実績は確認できるが、第1下線部の確認が残念ながらできない。従って、記述から判断し、評価2が相当となる。	
119	危機管理・人権・倫理委員会を中心に、危機管理マニュアルを作成し、危機対応体制を整備する。	3	3	3	3			3	3	3.0		

番号	年度計画	法人自己評価	評価委員会委員評価							平均値(参考)	評価のポイント、委員会確認事項(評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果(案)	A	B	C	D	E				
120	健康診断、ストレスチェック、職場巡回(月4回程度)を実施し、必要に応じて改善する。	4	4	4	4	3	4	3	3.6	(C委員) 教職員の受診率は、高いとは言えない。 (E委員) 当然行うべきことを実施したことでは評価4にはしにくい。		
121	学内情報環境の課題を把握し、体制を整備して解決に取り組む。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
122	設備の現状を把握し、対策を検討する。	3	3	3	2	3	3	3	2.8	(B委員) 「年度計画」の記述にある第1下線部及び第2下線部について、「計画の実施状況」の記述をみると、第2下線部の実績は確認できるが、第1下線部の確認が残念ながらできない。従って、記述から判断し、評価2が相当となる。		
評定平均値		3.1	3.1									
評価5		0	0									
評価4		1	1									
評価3		10	10									
評価2		0	0									
評価1		0	0									
第14 福知山市の規則で定める業務運営に関する事項												
123	施設及び設備の現状を把握し、老朽化したものについては整備を検討する。	3	3	3	3	2	3	3	2.8	(C委員) 当面の修繕改修に留まらず、計画的に整備や改修をするために、施設全体の設備の現状を把握し、長期的視野に立った修繕計画を立てる必要があるのではないか。		
124	北近畿地域連携センター及び市民学習・キャリア支援センターを設置するために、2号館の改修を行う。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
125	施設及び設備の適切な維持管理に努める。	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(C委員) No123の年度計画に対する実施状況も、この年度計画に該当するのではないか。		
126	職員の能力と実績を総合的に評価する制度の導入を検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
評定平均値		3.0	3.0									
評価5		0	0									
評価4		0	0									
評価3		4	4									
評価2		0	0									
評価1		0	0									

     法人自己評価と評価結果が異なる項目